

記入例

現代的健康課題への対応 ―チーム学校の視点から進める課題解決を体験的に学ぶ― 課題解決演習シート

現代的健康課題を抱える子ども達への支援―養護教諭の役割を中心として―（文部科学省H29年3月）対応 【30年11月14日記入】 作成者【埼玉 花子】

演習の視点

- ①養護教諭並びに関係職員の専門性や保健室の機能を活かす。
- ②逃してはならない効果的な連携のタイミングを大切にします。
- ③関係者や関係機関のコーディネーター役を果たす視点。
- ④教育活動全体につなぐための方策を設定する。

		対応の流れ	養護教諭					育成目標（埼玉県）との関連									
ステップ1 (対象者の把握)	手順1	<p>経験した事例（エピソード）</p> <p><経験した事例や課題となっている事例を記述></p> <p>頻回来室の事例【校種】小学校【学年】3年生【性別】女</p> <ul style="list-style-type: none"> ●夏休み明け、保健室に毎日来室するようになった。 ●本人は、頭痛と腹痛・気持ち悪さを訴えるが、バイタルサインに異常はない。 ●来室時の表情がかなり硬いことが気になる。時には、泣いて来室することもある。 ●しばらく話を聴いたり、友達と話していると笑顔が見られ、教室へ戻ることができる。 ●耳鼻科に通院中（中耳炎）である。朝食後の服薬になっているが、苦みと眠気のため飲みたくないと話していた。 ●保健室へ行くことが多いため、保護者はスクールカウンセラーへ相談している。 	<p>養護教諭の専門性・独自性の視点からの具体的な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ●安心して来室できる保健室環境づくり。 ●対象児童に日常的に声掛けをする。 ●欠席状況・来室状況等をまとめた資料を担任へ渡す。 ●担任などへ心と体の健康観察のポイントを説明する。 	<p>コーディネーター（調整の役割からの内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●職員会議や教育相談部会などで気になる児童として情報の提供・共有・確認をする。 	<p>必要な力（資質能力）、保健室経営、日常の準備等</p> <p><具体的に></p> <ul style="list-style-type: none"> ●発育発達の知識 ●情報収集能力 ●来室記録の整備 ●健康観察結果のまとめ ●安心して来室相談できる保健室経営 ●ほけんだより等で子どもの健康観察のポイントを周知 	<ul style="list-style-type: none"> ●保健管理 ●保健教育 ●健康相談・保健指導 ●保健室経営 ●学校保健活動に関する連携・調整 											
	手順2	<p><考えられる背景・要因を具体的に記述></p> <p>【本人より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語と算数は好きではないが、音楽や生活科の学習は好き。 ●体育は好きだが苦手なので、休み時間のドッジボール等のクラスレクも楽しめない。 ●塾（国語・英語）と水泳に通っており、学校と習い事の宿題が多くて大変。就寝時刻が遅くなることもある。 ●本当は、ピアノを習いたい、今の習い事は続けてほしい保護者の希望がある。 ●15分休みに来室することが多い。バイタルサイン異常なし。 <p>【担任より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学習面に課題があると感じている。（特に、文章を読むのが苦手） ●教室に戻ってきた後は、元気づけようとしており、友達と仲良く過ごしていることが多い。 <p>【スクールカウンセラーと保護者の面談より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●兄が高校受験を控えており、家族が兄中心の生活。（引っ越しも検討中） 	<ul style="list-style-type: none"> ●欠席状況・来室状況等から、曜日や授業に限定されるかなど分析する。 ●本人との信頼関係をつくる。 ●ヘルスアセスメントを行う。（心と体の健康観察） 	<ul style="list-style-type: none"> ●担任や保護者から学習面や友人関係、家庭での様子などを聞き取ってまとめる。 ●関係者との会議の日程・場所などを調整する。 ●会議の進行・記録などの役割を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●心身を観察する力 ●心身医的知識 ●カウンセリング能力 ●マネジメント力 ●関係機関の連絡先一覧の作成 ●関係の文獻書籍の整備 												
ステップ3 (支援方針の検討)	手順3	<ul style="list-style-type: none"> ●以下のようなメンバーで校内の状況に応じて、支援体制を組織する。 ○養護教諭 ○学級担任 ○管理職（校長・教頭） ○主幹教諭 ○学年主任 ○教育相談主任 ○スクールカウンセラー ○特別支援コーディネーター ○前担任（必要に応じて） ○兄弟の担任（必要に応じて） ○学校医（必要に応じて） 	<ul style="list-style-type: none"> ●心身の管理と指導を担当する養護教諭はそのチームの中心となって助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●支援チームをつくる。 ●学校医やスクールカウンセラーの協力を得る際の連絡調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コーディネーター力 ●マネジメント力 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒等の問題行動への対応 ●外部連携 ●運営参画 											
	手順4	<p><支援の基本的な方針を本人・保護者・外部機関等について記述></p> <p>【本人への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●頭痛や腹痛等の主訴への対応。 ●本人との信頼関係を築き、本音や願いを十分に話せる場をつくる。 ●生活リズムを確立させる。（特に睡眠） <p>【保護者への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●情報を共有し、必要に応じて面談を行う。（担任・保護者との面談に養護教諭も同席するなど、計画的に進める） <p>【外部機関との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スクールカウンセラーや学校医との連携による支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ●本人が抱えている心身の苦痛や状況の把握を行い、具体的な支援策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●支援方針・支援方法を理解し、支援チームで共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係者と連携力 ●企画力 												
	手順5	<p><誰と・どんな機関と・どのように（※職の特質を生かした支援）></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>校長・教頭</th> <th>学級担任</th> <th>保護者</th> <th>教育相談主任</th> <th>スクールカウンセラー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●担当者の支援の状況把握 ●支援方針の内容や進捗状況を把握 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●保護者との面談 ●必要に応じて電話による連絡相談や家庭訪問 ●健康観察結果の報告 ●クラスでの居場所づくり ●自己肯定感を高める授業 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●学校・家庭での様子を共有する。 ●体調不良が続いているので、かかりつけ医を受診する。 ●自己肯定感を高める言葉かけ </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●児童・保護者の様子を把握 ●必要に応じてWISC検査の実施 ●児童の教室での授業観察 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●児童・保護者との面談 ●必要に応じてWISC検査の実施 ●児童の教室での授業観察 </td> </tr> </tbody> </table>	校長・教頭	学級担任	保護者				教育相談主任	スクールカウンセラー	<ul style="list-style-type: none"> ●担当者の支援の状況把握 ●支援方針の内容や進捗状況を把握 	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者との面談 ●必要に応じて電話による連絡相談や家庭訪問 ●健康観察結果の報告 ●クラスでの居場所づくり ●自己肯定感を高める授業 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校・家庭での様子を共有する。 ●体調不良が続いているので、かかりつけ医を受診する。 ●自己肯定感を高める言葉かけ 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・保護者の様子を把握 ●必要に応じてWISC検査の実施 ●児童の教室での授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・保護者との面談 ●必要に応じてWISC検査の実施 ●児童の教室での授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘルスアセスメントをしつつ身体的苦痛の有無や心配事等について情報収集と対応を行う。 ●安心して来室できる環境をつくる。 ●就寝時刻の記録。 ●児童の授業・休み時間の様子の観察。 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係者の支援状況を具体的に把握し必要な支援を実施する。 ●保護者との面談・管理職との連絡・学校医による健康相談 ●随時に支援会議を開催
校長・教頭	学級担任	保護者	教育相談主任	スクールカウンセラー													
<ul style="list-style-type: none"> ●担当者の支援の状況把握 ●支援方針の内容や進捗状況を把握 	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者との面談 ●必要に応じて電話による連絡相談や家庭訪問 ●健康観察結果の報告 ●クラスでの居場所づくり ●自己肯定感を高める授業 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校・家庭での様子を共有する。 ●体調不良が続いているので、かかりつけ医を受診する。 ●自己肯定感を高める言葉かけ 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・保護者の様子を把握 ●必要に応じてWISC検査の実施 ●児童の教室での授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・保護者との面談 ●必要に応じてWISC検査の実施 ●児童の教室での授業観察 													
手順6	<p><逃してはならない適時のタイミングを意識して記述する></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>関係機関との連携（学校医・かかりつけ医）</th> <th>表情の変化 行動の変化 欠席状況</th> <th>表情の変化 行動の変化 登校しぶり</th> <th>保護者からの相談内容の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●関係機関との連携（学校医・かかりつけ医） </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●表情の変化 ●行動の変化 ●欠席状況 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●表情の変化 ●行動の変化 ●登校しぶり </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ●保護者からの相談内容の変化 </td> </tr> </tbody> </table>	関係機関との連携（学校医・かかりつけ医）	表情の変化 行動の変化 欠席状況	表情の変化 行動の変化 登校しぶり	保護者からの相談内容の変化	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関との連携（学校医・かかりつけ医） 	<ul style="list-style-type: none"> ●表情の変化 ●行動の変化 ●欠席状況 	<ul style="list-style-type: none"> ●表情の変化 ●行動の変化 ●登校しぶり 	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者からの相談内容の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ●表情の変化、出席状況の変化等があった場合は、関係職員に報告。 ●学校医・かかりつけ医との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ●逃してはならない兆候やタイミングをチームとして共有する書類や会議を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報収集能力 ●情報処理能力 ●情報活用能力 					
関係機関との連携（学校医・かかりつけ医）	表情の変化 行動の変化 欠席状況	表情の変化 行動の変化 登校しぶり	保護者からの相談内容の変化														
<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関との連携（学校医・かかりつけ医） 	<ul style="list-style-type: none"> ●表情の変化 ●行動の変化 ●欠席状況 	<ul style="list-style-type: none"> ●表情の変化 ●行動の変化 ●登校しぶり 	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者からの相談内容の変化 														
ステップ4 (児童生徒の状況確認及び支援方針・支援方法)	手順6	<p><支援の方針・連携・分担・コーディネーター等々評価と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ●来室記録をつけていたことで、来室状況に変化があることをデータで職員に理解してもらうことができた。 ●本人との会話から、兄が高校受験を控えており、週末に家族で学校見学に行くことが多いと聞いていたが、転居の予定については、母親とSCとの面談の中ではじめて得た情報であった。改めてSCとの情報の共有・連携が重要であると実感した。 ●学級担任やSCと情報交換を行い、頻回来室の背景について「器質的な疾患」、夏休みの生活習慣の乱れによる「不定愁訴」、発達障害による「学習への困難さ」など、様々な視点から対応策を検討することができた。 ●今後も、教育相談部や特別支援教育部との連携のため、校内支援体制を整備するとともに、医療機関との連携体制も整えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日頃の来室記録が支援の共通理解に役立った。 ●養護教諭の専門性・独自性を活かした対応（心身医的知識・身体的観察の技術）ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●養護教諭が中心となって教育相談主任の協力を得て管理職への報告・SCとの連携を円滑に行うことができた。 ●保護者への面談は、母親の希望によりSCが中心にあたるように分担した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コーディネーター力 ●専門家との連携力 ●会議の設定などの調整力・交渉力 ●発育発達の知識 	<ul style="list-style-type: none"> ●保健管理 ●健康相談・保健指導 ●保健室経営 ●学校保健活動に関する連携・調整 ●外部連携 											
今後の教育活動につなぐ	<p><養護教諭として取り組む教育活動を具体的に記述></p> <p>「個別の保健指導」「ほけんだより」「保護者会」「宿泊学習」「幼・小・中・高の連携」など具体的に記入する。</p> <p>（保健教育）心の健康と体の健康のつながりについての掲示物を作成し、児童が心の健康も重要であることを理解できるようにする。→【掲示教育】</p> <p>（保健教育）生活リズム（特に睡眠）の指導とあわせて、自分の気持ちの伝え方等の指導を行う。→【個別の保健指導】</p> <p>（健康相談）健康相談を一層充実し日頃から身体的症状、行動、健康観察結果の分析・検討し、記録しておく。→【健康相談の充実】</p> <p>（保健組織活動）学校保健委員会において「生活リズムの大切さ」や「心の健康」等と関連して周知する。→【地域・保護者との連携】</p> <p>（保健組織活動）生活リズムや心の健康を児童集会でのテーマとして取り上げる。→【全体指導】</p> <p>（児童生徒への対応）転出先が決まったら、情報提供する。→【他校との連携】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①保健管理 ②保健教育 ③健康相談・保健指導 ④保健組織活動 ⑤保健室経営 ⑥連携調整 ⑦児童生徒への対応 ⑧教育相談対応 ⑨問題行動への対応 ⑩外部連携 ⑪運営参画 ⑫学校安全 															